

広報



まつり

9

2014年
(平成26年)
No.719
月号

CONTENTS

02 特集

卒寿の祭り

- 08 トピックス
- 10 Photo Pick UP 七夕まつり
- 11 市政の動き
- 16 マックチャンネルガイド
- 18 出来事通信
- 20 情報ねっと
- 30 三沢魂



国際サマーフェスティバル 8月23日／市内幹線道路ほか

「三沢独自の特徴あるまつり」を目指し、三沢青年会議所が三沢まつり中日に開催する国際色豊かなイベント。半被と手拭いを身に付けた外国人が意気揚々と神輿を担ぐ姿は、国際交流が盛んな三沢ならではの光景。



三沢の夏の祭典『三沢まつり』は今年で90周年。祭りの様子を伝え、その歴史を振り返る。

特集 卒寿の祭り



90周年を迎えた『三沢まつり』

8月21日の前夜祭と22日からの3日間、今年で90周年を迎えた『三沢まつり』が盛大に開催された。前夜祭は断続的な雨に、翌日のお通りは激しい雷雨に見舞われるも、中日以降は天候に恵まれ、参加了多くの人々が記念すべき節目の祭りを祝い、楽しんだ。

『三沢まつり』の見どころの一つは、各祭礼自慢の山車。14祭礼の山車組と呼ばれる人々が、こつこつ作り上げた入魂の作品だ。莊厳かつ美麗。お通りの合同夜間運行ではライトアップされ、日中運行とはまた異なる美しさを見せた。さらに、山車上では、練習を重ねてきた子どもたちが祭りばやしを演奏。力強い太鼓と美しい笛の音、威勢よい掛け声が観客を魅了した。また、中日の23日には、郷土民俗芸能や大仮装行列、流し踊りや国際サマーフェスティバル（みこしパレード）などを実施。三沢を訪れたウエナツチバレー姉妹都市友好親善使節団も、人力車などに乗って参加。青い森鉄道三沢駅東口広場での古間木社奉納まつりや、90周年を記念した各種イベントが催されるなど、例年以上に多彩な内容は今年の『三沢まつり』を大いに盛り上げた。

毎年、祭礼同士が熱い戦いを繰り広げる『三沢まつり』の前夜祭。祭りばやし競演会には、練習を重ねた各祭礼の子どもたちの中から、さらには、練習を重ねた各祭礼の子どもたちの中から、さらには、選ばれた精銳が登場。祭禮の誇りと代表としての責任を背負い、1位を目指す。一方山車の自作化に伴い、実施されるようになつたのが山車審査会。そこで授与される賞は、人員・資金不足に悩むながら仕事後や休日の時間を費やし、山車を作ってきた各祭礼山車組が手にする栄誉の一つとなつている。

8月21日に行われた今回の前夜祭では、ミス・ビードルドームに14祭礼が集結。色鮮やかにライトアップされた各祭礼の山車が特設ステージを囲み、競演会が開催された。祭典委員会は、それぞれが積み重ねてきた努力に敬意を払い、各賞を授与。結果に悔し涙を流す者もいれば、仲間と喜びを分かち合う者もいた。そして、最後は互いの健闘を讃え合い、祝福。翌日からの祭りの成功を誓い合つた。気迫みなぎる競演会と趣向凝らした各祭礼入魂の自作山車。多くの人々の心を動かし、楽しませていました。

山車審査会

審査結果

最優秀賞	三国志 ～劉備玄徳と五虎大將軍～ 平畠祭礼委員会
優秀賞	三沢まつり90周年記念「三湖龍神伝説」中央町二丁目祭礼委員会 西遊記 牛魔王 中央町一丁目祭礼 源平合戦盛衰記 幸町一丁目祭礼委員会
特別賞	浦島太郎 大町連合町内会祭礼 琵琶湖伝説 竹生島縁起絵巻 大通り祭礼委員会 本能寺炎上と戦国時代の三大武将 新町祭礼

協力し合い完成した山車。感謝し喜び分かち合いたい

浪岡 正さん 平畠祭礼委員会【山車審査会 最優秀賞】

念願の最優秀賞をいただいたので、すごくうれしいです。今日（前夜祭当日）は私の誕生日でもあります。今日はサプライズプレゼントとなりました。苦労しましたが、みんなで協力して完成した山車。みんなに感謝して、喜びを分かち合いたいです。三沢まつりの100周年はもうすぐ。これからは、三沢まつりを一年でも長く続けていくための山車作りを目指します。

INTERVIEW







高め合う前夜祭

祭りばやし競演会と山車審査会

ふるまき

祭りばやし競演会

審査結果

1位	ふるまき祭礼委員会
2位	新町祭礼
3位	中央町二丁目祭礼委員会
4位	銀座連合町内会祭礼
5位	桜町二丁目祭礼委員会
特別賞	本町四丁目祭礼

子どもたちが必死に頑張ってきた結果。「できる」と信じていました。

山本 佳奈さん ふるまき祭礼委員会指導係【祭りばやし競演会 1位】

けんか太鼓は、ふるまき祭礼が元祖。「けんか太鼓は外したくない」「けんか太鼓を盛り上げていこう」と子どもたちは泣きながらでも必死に頑張ってきました。その姿を毎日見てきたので、「（子どもたちは）できる」と信じていました。練習の成果があらわれた当然の結果です。また、練習をしながらでも常に子どもたちと遊びながら「楽しめる」という努力もしてきましたので、それも結果につながったのかなと思います。




歴史民俗資料館 三沢まつり 90年記念企画展

『三沢まつり今と昔』



歴史民俗資料館では、『三沢まつり』の今昔をテーマに、発祥の由来や移り変わり、特徴などについての企画展を開催しています。

昭和43年頃までの記録や資料が少なく、関係者の証言や古い写真から歴史の変遷を説明。『三沢まつり』山車運行のモデルとなった八戸三社大祭や、山車に使用している人形の実物、製作風景も展示しています。

本企画展を通して『三沢まつり』の形態や当時の人々の生活に思いを馳せ、時代の移り変わりや祭祀などについて、関心を抱いていただければと考えています。

期間 開催中～平成27年3月29日(日)
(休館日は月曜日と年末年始)

時間 9:00～17:00
(11月～3月は16:00まで)

入場料 一般100円／小・中学生50円
(小・中学生は土曜日無料)

問い合わせ先 歴史民俗資料館(☎ 59-3670)



次世代へ受け継ぐために

時代とともに進化を続けてきた『三沢まつり』。しかし、今も昔も変わらないものがある。それは、代々受け継がれてきた、地域の祭りを愛する想い。この90年の間、戦争や数々の災害に見舞われながらも、先人は私たちに素晴らしい音色とともに観客を感動させていている。

三沢まつりの略歴

1925年(大正14年)	第1回三社大祭
1948年(昭和23年)	下田村・六戸村・浦野館村の一部を合併し、大三沢町となる。
1958年(昭和33年)	三沢市制施行
1959年(昭和34年)	大通り祭礼が自作山車『梁川庄八』を運行
1968年(昭和43年)	『三沢まつり』に名称を変更(※昭和37年の説もあり)
1969年(昭和44年)	前夜祭行事として祭りばやし競演会を開始。 ※市民会館(現・公会堂)前を会場に、舞台は米軍基地より借用した大型トレーラー
1976年(昭和51年)	前夜祭行事の祭りばやし競演会を中央公園で開催
1978年(昭和53年)	祭りばやし競演会を米軍基地内で米軍花火大会と同時開催
1981年(昭和56年)	三沢国際まつり(現・国際サマーフェスティバル)を初開催
1992年(平成4年)	中央公園で山車展示を併せた前夜祭行事を試みる。(山車展示3台)
1997年(平成9年)	前年にオープンしたミス・ビードルドームで初めて前夜祭を開催。過去最高の14台の山車が集まる。
2002年(平成14年)	16台の山車が合同運行(うち自主製作1台)
2003年(平成15年)	『新生三沢まつり元年』 山車作り講習会を開催。自主製作の山車15台が運行し、この年から山車審査が始まる。
2004年(平成16年)	『再出発・第2のステージ』 十五山車別れのけんか太鼓が初めて行われる。
2007年(平成19年)	市の委託事業から補助事業へ移行。商工会が単独主催者となる。御神輿渡御と初日の合同夜間運行を初めて実施。
2012年(平成24年)	天候不良のため、お通りの夜間運行が中止。 薬師町祭礼の山車が故障により運行不能となるが、本町四丁目や新町、ふるまきの祭礼が助け合った。
2013年(平成25年)	14台の山車による合同運行。薬師町祭礼とテラヤマ・ワールドが協力し、寺山修司作品『人魚姫』をモチーフにした山車を製作・運行した。



第1回三社大祭に参加した人々
／松橋旅館(現在の本町一丁目、かねた旅館)前
1925年(大正14年)(株)萬誠堂 佐々木伸芳氏所蔵

卒寿を迎えた祭り



- 1 三社大祭に参加した本町二丁目の人々(昭和25年)
- 2 市役所通り成健商店前での仮装行列(昭和34年)
- 3 上久保小学校前での山車運行(昭和35年)
- 4 中央公園で実施した祭りばやし競演会(昭和51年)
- 5 初めての山車審査会で最優秀賞を獲得した中央町一丁目祭礼の自作山車(平成15年)
- 6 初めての十五山車別れけんか太鼓(平成16年)
- 7 悪天候のため公会堂で開催された祭りばやし競演会(平成20年)
- 8 祭りを受け継ぐ子どもたち

私たちが、次の世代へ受け継いでいかなければならぬ。三沢に住む一人として何ができるのか。卒寿を迎えた節目に、一度、祭りとの関わりを考えみてはいかがだろうか。

人にすれば90歳、卒寿を迎えた『三沢まつり』。その発祥は、大正14年にさかのぼる。当時の古間木駅(現・青い森鉄道三沢駅)周辺では火事が多発。不動神社、権現神社、薬師神社の神々を楽しく遊ばせることで火を鎮めようとした始めとされている。八戸の三社大祭を参考にした御神輿行列と、八戸から借りてき了山車を運行(※大通り祭礼は昭和34年以降、山車を自作)。三社大祭として古間木駅周辺で開催してきた。太平洋戦争中、御神輿行列を除き一時中断されたが、戦後に復活。参加町内会が増え、規模は拡大。昭和43年からは『三沢まつり』として開催された。前夜祭での祭りばやし競演会が始まったのは昭和44年。昭和56年には三沢国際まつり(現・国際サマーフェスティバル)が初めて開催されるなど、祭りの内容は充実していった。平成14年に青森陸運支局などから山車の牽引搬送への指摘・通達を受け、翌年以降、全祭礼が山車を自作することになった。それから今まで11年。山車の製作技術は年々向上し、大きさや緻密さなど、各祭礼の山車は進化し続けてきた。中国や日本の故

市農業委員会 農業委員が改選されました



農業委員会事務局（内線 255）

農業委員は、農地法による農地の所有権移転・賃貸借等申請に伴う許可、農地転用許可申請に係る承認、農地のあっせんなど、地域農業のあり方や農地利用について審議する役割を担っています。

このほど、任期満了に伴い 19 人の新委員が決まり、引き続き会長に新堂政登氏が、会長職務代理者に小比類巻強氏が選任されました。任期は 7 月 20 日から平成 29 年 7 月 19 日までの 3 年間となります。

敬老会を開催します

介護福祉課 高齢福祉係（☎ 51-8773）

今年度は、チャリティー第一保育園児によるアトラクションもあります。

日 時 9月 20 日（土）10:30～（受付 9:30～）

場 所 公会堂

対象者 6月 15 日以前から三沢市に在住する 70 歳以上（昭和 19 年 9 月 16 日までに出生）の方

はがきと引き換えにお弁当をお渡しします

※引き換えは当日の 13:00 までです。

※緑色のはがきをお持ちの方は、総合社会福祉センターでも引き換えすることができます。公会堂前の渋滞緩和のため、ご協力をお願いします。

※介護保険施設に入所されている方には、施設を通して別の記念品をお渡しします。

お手伝いしてくださるボランティアを募集します

募集期間 9月 8 日（月）まで

応募・問い合わせ先

介護福祉課 高齢福祉係（☎ 51-8773）

特定健康診査に関する電話調査に ご協力ください

国保年金課（内線 298）

三沢市では、国民健康保険に加入する皆さまが生涯にわたり健康な生活を送ることができるよう、平成 20 年度から特定健康診査を実施しています。

特定健康診査は、40 歳～74 歳の国民健康保険加入者全員を対象としていますが、残念なことにその半数以上の方が受診されていません。そこで、この度、まだ受診・申し込みをされていない方を対象に、特定健康診査受診をご案内するとともに皆さまの率直なご意見やご要望をお伺いするため、電話調査を実施します。今後、より多くの方に受診していただくために、ご協力をお願いします。

調査期間 9月 8 日（月）～30 日（火）

調査実施者 株式会社 現代けんこう出版

問い合わせ先 国保年金課 国保係（内線 298）



7月 25 日から 27 日までの 3 日間にわたり、中心市街地やアメリカ広場などを会場として、今年で 60 回目となる『みさわ七夕まつり』が開催。市内外から延べ 12 万人を超える人々が訪れました。

一方通行の通りには、商店街の店舗や企業・団体が作った華やかな吹き流しや夢・願いを書いた短冊などが飾られ、夜間にはライトアップ。吹き流しをくぐるたびに大道はしゃぎの子どもたちを見守りながら、大人たちはその華麗さや趣向を堪能していました。その他にも、各種ステージやダンスコンテスト、3on3 バスケットボール、bingo 大会などが催され、中央公園では『ご当地グルメパーク』も開催。盛りだくさんの内容で来場者を楽しませました。



episode 『七夕まつり』の誕生

昭和 30 年、仙台七夕まつりを視察した大通り商店街の 20 店舗が飾り付けをしたのをきっかけに、昭和 31 年から始まった『七夕まつり』。昭和 50 年からは、商工会青年部が中心となって本格的に取り組むようになりました。最盛期には、市中心部アーケード街を形成する大町、銀座、大通り、中央の 4 商店会と市役所から基地ゲート前に抜ける壹番街商店会に 100 本を超える色とりどりの吹流しが飾られ、華麗さを競い合いました。

昭和 40 年当時の七夕まつり▶



episode ご当地グルメパーク

中央公園の特設会場で開催されたグルメイベント。三沢はもちろん、県内各地から特産品や特色を生かした料理「ご当地グルメ」10 品が集まり、来場者をもてなしました。



『三沢ほっき丼』『パイカ料理』新規参加店を募集します

各店舗が独自に創意工夫をした**三沢ほっき丼**は、三沢市の冬のグルメとして定着してきました。また、年間を通じて提供できるパイカ肉を使った、各店オリジナルの料理(鍋、丼、ラーメン、カレーなど)も大々的にPRしていくたいと考えています。

三沢ほっき丼とパイカ料理の事業に、それぞれ参加を希望する店舗は、ご連絡ください。

申込締切 9月26日（金）
申し込み・問い合わせ先 観光物産課（内線523）

「市長と語ろう住民懇談会」専門職の参加者を募集します

少子高齢化への対応策や定住人口の確保策など、「これから三沢市に求められるものは何か」について市長と語り合います。各種専門分野で働く方の参加をお待ちしています。

日 時 10月29日（水）18:30～20:00
場 所 市役所 4階 大会議室
テー マ 「人口減少社会とからの三沢市」
対 象 市内在住または在勤の、各種専門分野で働く専門職の方
定 員 10人（先着順）
応募方法 ①氏名②住所③電話番号④職業⑤話したい主な意見や提案を記入し、郵送、FAXまたはEメールでご応募ください。
応募締切 9月30日（火）
応募・問い合わせ先 広報広聴課 市民協働推進係（内線215）
 〒033-8666 三沢市桜町1丁目1番38号
 FAX 52-5655
 Eメール koho@city.misawa.lg.jp

平成27年度に発送する 納税通知書用封筒広告を募集します

税務課（内線162）

募集枠数 2枠**大きさ** 縦64mm×横95mm**募集価格** 4万円～（※約42,000枚を発送予定）**申込方法** 税務課に設置する申込書に必要事項を記入の上、お申し込みください。**応募期限** 9月26日（金）必着

※印刷の色は1色です。

※デザインは広告主が作成してください。

※応募件数が募集枠を超えたときは、申込額が高いものを優先します。

応募・問い合わせ先

税務課住民税係（内線162）



総合防災訓練 を実施します

地震と津波を想定した総合防災訓練を実施します。当日は、緊急地震速報のサイレンを合図に、各種訓練を開始します。防災行政無線の放送やエリアメールの配信、航空機の訓練飛行などが行われますので、ご理解とご協力をお願いします。

また、各町内会でも、地域ごとに自主防災訓練を実施する予定となっていますので、積極的に参加してください。

日 時 10月5日（日）8:30～**会 場** 市役所、三沢漁港、第五中学校

- ▷沿岸地域を対象とした津波避難訓練、航空機の訓練飛行、防災ヘリの水難救助訓練ほか

- ▷避難所運営訓練、起震車体験、防災資機材の展示（第五中学校）

問い合わせ先 防災管理課（内線252）

蜂の巣撤去は、所有者から 専門業者へご依頼ください

環境衛生課（内線279）

自宅の敷地内に蜂の巣がある場合は、その土地または建物所有者が撤去を行うことになります。個人で撤去できない場合は、専門業者（有料）にご依頼ください。

▶市では蜂の巣の撤去を行っていませんが、防護服を無料で貸し出しています。

▶蜂の巣が公共施設にあった場合は、環境衛生課までご連絡ください。

※蜂を退治するためには、6月に罠を設置するのが最適です。今から蜂の飛来コースを覚えておきましょう。

**問い合わせ先** 環境衛生課（内線279）

犬のウンの後始末は 飼い主の責任です！

環境衛生課（内線279）

犬と散歩をするときは、ウンの後始末をしっかり行いましょう。

ウンの後始末をしない行為は、青森県動物の愛護及び管理に関する条例の第7条に違反します。散歩に出掛ける前に、ウンを済ませる習慣付けも必要です。

あなたのかわいいペットが、まちの嫌われものにならないよう、みんなでルールを守りましょう！

**問い合わせ先** 環境衛生課（内線279）

「夕暮れ時の事故には特にご注意を」 秋の全国交通安全運動

生活安全課（内線316）

秋の全国交通安全運動が9月21日（日）～30日（火）の10日間、実施されます。日没が早まる時期ですので、夕暮れ時の事故には、特にご注意ください。また、歩行者は反射材用品を活用しましょう。

- ▷子どもや高齢者は特に交通事故に気を付けましょう。
- ▷夕暮れ時と夜間の歩行中や自転車乗用中は、事故が多発します。十分に気を付けましょう。
- ▷自動車に乗るときは、全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用を徹底しましょう。
- ▷飲酒運転を根絶しましょう。

広告

広告

広告

広告



『上久保小おやじの会』には、規約や、あらかじめ作る活動計画はない。「縛らないことで長続きすることもある」。堅苦しくならず、気軽に人が集まるようにしたかったためだ。また、発起人以外に固定のメンバーもない。必要に応じて学校と会が相談し、活動を計画。その都度、保護者や地域に呼び掛け、参加者を募っている。加藤さんも徐々に同会の活動に参加するようになった。

最初の活動は、「子守り」!? 最初の活動は、意外にも子守りだった。一昨年の6月、運動会前のPTA環境美化活動。男手なら力仕事という発想を変え、図書室で世話をした。その結果、小さな子を持つ父兄がそろって環境美化活動に参加でき、参加人数は増えた。子どもたちのため、学校のため。PTAとは別団体であるものの、目的は一緒。PTA活動を尊重しながら、ときどき「子どもたちのため、学校のため」と話す加藤さん。参加してく

漏らすこともある。それでも「よつしゃ、やつたるか」と腕まくりをして、また黙々と作業する「親父」たちは、男気につれて活動を振り返り、「やつてきてよかったです」と話す加藤さん。参加してく



1 おやじの会によって塗り替えられた下駄箱トレイ
2 きれいに塗装できるよう古い塗装をはがす参加者
3 養生した壁にていねいに塗装していく参加者たち
4 富田校長も、おやじの会の一員として作業
5 子どもたちも手伝い、校庭のベンチを塗り替え

気軽に人が集まるように

最初の活動は「子守り」!?

目指すのは「変わらないこと」

『上久保小おやじの会』には、規約や、あらかじめ作る活動計画はない。「縛らないことで長続きすることもある」。堅苦しくならず、気軽に人が集まるようにしたかったためだ。また、発起人以外に固定のメンバーもない。必要に応じて学校と会が相談し、活動を計画。その都度、保護者や地域に呼び掛け、参加者を募っている。加藤さんも徐々に同会の活動に参加するようになった。

最初の活動は、意外にも子守りだった。一昨年の6月、運動会前のPTA環境美化活動。男手なら力仕事という発想を変え、図書室で世話をした。その結果、小さな子を持つ父兄がそろって環境美化活動に参加でき、参加人数は増えた。子どもたちのため、学校のため。PTAとは別団体であるものの、目的は一緒。PTA活動を尊重しながら、ときどき「子どもたちのため、学校のため」と話す加藤さん。参加してく



▲上久保小おやじの会の加藤会長（中段左から3人目）と、7月12日に同会の作業に参加した人々



学校が地域社会の中で子どもを育てる存在であり続けるために

上久保小学校おやじの会

水飲み場のベンキ塗り

そのとき、校長先生が抱いたのは、「子どもたちを中心

に、男親のつながりを大切に

する活動はできないか」とい

う想いだつた。増えてきたと

階から4階までの水飲み場壁面と、校庭ベンチの塗り替え

ないよう鏡を取り外し、塗装箇所以外は丁寧にビニールで養生。暑さから吹き出す汗もそのままに、黙々と作業する人々の手によって、学び舎の壁はあつという間に真っ白になつた。

これは、『上久保小学校おやじの会』による活動の一つ。同校児童の父親を中心に、地域の人々と学校が手を取り合いで、学校を支えている。

7月12日、土曜日の上久保

小学校に、屈強な男性を中心とした約20人が集合。校舎1

階から4階までの水飲み場壁面と、校庭ベンチの塗り替え

ないよう鏡を取り外し、塗

装箇所以外は丁寧にビニールで養生。暑さから吹き出す汗もそのままに、黙々と作業する人々の手によって、学び舎の壁はあつという間に真っ白になつた。

これは、『上久保小学校お

やじの会』による活動の一つ。同校児童の父親を中心に、地域の人々と学校が手を取り合いで、学校を支えている。

「男親のつながりを広げたい

『上久保小おやじの会』ができるのは2年前の4月。当時、上久保小学校児童と自動車が接触する事故が学校周辺の交差点で起こつた。地域の人々が以前から危惧する交差点であり、注意喚起の看板も古くなつていた。そこで、同校に通う児童の父親でもある加藤貴之さんが、看板を作り替えることを提案。同校イラスト部の児童が絵や標語を考え、加藤さんら「親父」たちと一緒に作りあげた。



episode

自分で守る命

『上久保小おやじの会』が発足するきっかけとなった、交通事故防止を呼び掛ける看板。イラストや標語は、イラストクラブの児童が考えた。同会の加藤会長が「保護者からは出ない」と語る『自分で守る命』の標語には、児童の危機意識の高さが表れている。

『上久保小おやじの会』の願いは、上久保小学校と同校の地域が、変わらず、そういう存在であり続けること。『そのために何ができるのか』。活動を模索し、人と人とのつながりを築きながら、親父たちはまた黙々と汗を流す。



MISAWA SPIRITS

地域で頑張る人々を紹介します

女性の視点からまちづくり事業を企画！

まち・きらきらセミナー

6年目となる今年は、女性の視点を生かした情報発信と人材育成をテーマに、19人の女性が参加。市民活動ネットワークセンターみさわを会場に、全5回にわたって開催された。講師のあおもりNPOサポートセンター田中弘子理事長から、まちづくり活動のポイントを学んだ参加者は、4つのグループに分かれ、それぞれに事業を企画。最終回では、各事業案を発表し、意見を交わした。

6年目となる今年は、女性の視点を生かした情報発信と人材育成をテーマに、19人の女性が参加。市民活動ネットワークセンターみさわを会場に、全5回にわたって開催された。講師のあおもりNPOサポートセンター田中弘子理事長から、まちづくり活動の

ポイントを学んだ参加者は、4つのグループに分かれ、それぞれに事業を企画。最終回では、各事業案を発表し、意見を交わした。

女性ならではの視点と発想、行動力にネットワークが合わされば鬼に金棒。きらきら輝く女性たちのまちづくりに、今後さらに期待が高まる。

女性ならではの視点と発想、行動力にネットワークが合わされば鬼に金棒。きらきら輝く女性たちのまちづくりに、今後さらに期待が高まる。

人口と世帯数 －7月末現在－ ※（ ）内は前月との増減比較

■人口 41,418人（-13人）・男 20,333人（+26人）・女 21,085人（-39人） ■世帯数 18,773世帯（+35世帯）